

会 議 録

| | | | | |
|------------------|--|--|------------------------------|-------------------------------|
| 会議の名称 | | 令和6年度第1回大穂学園コミュニティ・スクール協議会 | | |
| 開催日時 | | 令和6年(2024年)6月7日 開会 15:00 閉会 17:00 | | |
| 開催場所 | | 大穂交流センター | | |
| 事務局(担当課) | | 教育局生涯学習推進課 | | |
| 出席者 | 委員 | 古谷野好栄、諏訪優子、井内博行、野澤洋夫、中島 肇 小林正信、小林由二、村上義孝、菊田康人、川根義行 塚本正人、中島武夫、小野泰宏、大塚貴文、清水 大 山崎由美子、杉田 健、濱田優子 大穂中学校：校長 久松和則 大曾根小学校：校長 勝村和之 前野小学校：校長 村野守司 要小学校：校長 石原亜矢子 吉沼小学校：校長 大越 茂 | | |
| | その他 | 大穂中学校：教頭 鈴木英理、教務主任 渡邊久美子 大曾根小学校：教頭 輿水浩美、教務主任 中野 満 前野小学校：教頭 坂入洋子、教務主任 宮本 諭 要小学校：教頭 大谷順子 吉沼小学校：教頭 坂本 修、教務主任 木澤智子 | | |
| | 事務局 | 教育局長 吉沼正美 生涯学習推進課：課長 澤頭由紀子 ：参事 山口健次 ：係長 飯島 遊 ：社会教育主事 村上和宏 ：地域連携教育指導員 酒井和宏 | | |
| 公開・非公開の別 | | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 | <input type="checkbox"/> 非公開 | <input type="checkbox"/> 一部公開 |
| 非公開の場合はその理由 | | 傍聴者数 0名 | | |
| 議題 | | 1 学校運営の基本方針について 2 昨年度までの活動を生かした、今年度の流れについて 3 その他(協議会の今後の予定) | | |
| 会議録署名人 | | 確定年月日 | | 年 月 日 |
| 会 議 次 第 | 1 開 会 2 任命書の交付 3 教育長挨拶 4 つくば市のコミュニティ・スクールについて(行政説明) 5 会長・副会長の選出 6 協議(1)学校運営の基本方針について 協議(2)昨年度までの活動を生かした、今年度の流れについて 協議(3)コミュニティ・スクール協議会今後の予定について 7 閉会 | | | |

<審議内容>

1 開会

事務局：ただ今から、令和6年度第1回 大穂学園コミュニティ・スクール協議会を開会いたします。

はじめに、つくば市コミュニティ・スクール協議会に関する規則第6条第2項では、「会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。」としております。本日の出席委員数は23名であることから、会議が成立していることをお知らせいたします。

会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。事務局案として大曾根小学校 中野 満先生にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

参加委員：お願いします。

事務局：お引き受けくださりありがとうございます。よろしく申し上げます。

2 任命書交付

事務局：始めに「任命書」の交付をいたします。任命書の交付は五十音順で代表者1名とさせていただきます。なお、森田教育長は欠席となります。代わりまして教育局長、吉沼が代理で行います。井内委員お越してください。

(「任命書」を井内委員に交付)

続きまして、地域学校協働活動推進員の御紹介と委嘱状の交付を行わせていただきます。

大穂学園で、学校と地域をつなぐパイプ役となる地域学校協働活動推進員を協議した際、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者として中島武夫委員、小野泰宏委員、大塚貴文委員、中島 肇 委員、川根義行委員、塚本正人委員、古谷野好栄 委員、諏訪優子 委員、渡邊伸一 委員、菊田康人委員を大穂学園から御推薦いただきました。地域学校協働活動推進員設置要項第3条に該当するものとして、「地域学校協働活動推進員」を委嘱させていただきたいと思っております。委嘱状の交付は、五十音順で代表者1名とさせていただきます。(「委嘱状」を大塚貴文委員に交付)

ありがとうございました。お席にお戻りください。

なお、この会議において皆様は、非常勤特別職として任命され任期は1年となり、任期は今年度末までとなります。また、守秘義務等の責務がございます。御留意ください。

皆様の任命書については、机の上にございますので御確認ください。委員の皆様のご自己紹介に関しては、この後お時間を取らせていただきます。御了承ください。

3 教育長挨拶

事務局：続きまして、つくば市教育長森田から挨拶を預かっておりますので、教育局長 吉沼が代読いたします。

吉沼：森田教育長の挨拶を代読させていただきます。

本日はお忙しい中、第1回大穂学園コミュニティ・スクール協議会に参加し

いただきありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては当協議会の委員を快くお引き受け頂き、深く御礼申し上げます。

本年度、大穂学園においては、法に基づいた協議会を設置し、「コミュニティ・スクール」が本格始動します。昨年度1年間の推進会議を通じて、目指す児童・生徒の姿や、学校と地域が子どもたちのためにどのような協力ができるかを、時間をかけて話し合っていたいただいたことと思いますが、その話し合いを基に、より具体的な議論を深めていただければと思います。

コミュニティ・スクール協議会の設置は、ゴールではなく、スタートラインであり、また、すぐ目に見える成果が出るとも限りません。しかし、委員の皆様のを合わせ、未来を担う子どもたちのために何ができるのかを考えていくことで、必ず、それぞれの学校の実情にふさわしい地域との連携の在り方が生まれてくるものと感じております。

参考として、つくば市のモデル地域として、令和4年度から先行的に「コミュニティ・スクール」を導入した吾妻学園の取組を紹介させていただきます。吾妻学園では、昨年度、地域学校協働活動推進員のコーディネートにより、「ようこそ先輩」と題する卒業生や地域住民による授業を、キャリア教育の一環として実施しました。既存の枠組みを活用した地域学校協働活動の事例として、参考にしていただければと思います。

複雑化・多様化する社会の中で、子どもたちがこれからの時代を生き抜く力を育成するためには、つくば市教育大綱の理念にもあるように、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子どもの育ちの場を支えることが必要不可欠となります。委員の皆様におかれましては、つくば市の教育の充実に向け、今後ともどうぞ御協力をよろしくお願いいたします。

事務局：それでは、初めての協議会ですので、自己紹介をお願いいたします。
(各委員、自己紹介)

4 説明事項

事務局：社会教育主事の村上より「つくば市コミュニティ・スクールについて御説明させていただきます。

事務局(村上社会教育主事)：社会教育主事 村上と申します。よろしくお願ひいたします。わたくしのほうからは、

- 1 つくば市の教育が目指すもの
 - 2 コミュニティ・スクールとは
 - 3 つくば市で進めるコミュニティ・スクールとは
- について御説明いたします。

まず、つくば市の教育が目指すものについて御説明いたします

配付されている教育大綱の冊子を手にとっていただき、1ページをお開きください。つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を送ることを最上位の目標に設定しています。次に7ページをお開きください。いま必要なことの中に、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子どもたちの育ちの場を支えることを位置づけています。

教育大綱に基づいたコミュニティ・スクールの導入をすることにより、今後

地域の多くの人々が学校づくりに参画し、地域と一体となり、地域とともにある学校づくりを進めて行きたいと考えています。つくば市の学校教育を所管している学び推進課からは、「学び推進方針」を学校に示しています。みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園にするために、今年度特に意識していることは、子どもたちの「自己決定」ができる環境を整えていくことです。また、学び推進課では「伴走から自走」というスローガンのもと、各学校が生き生きと自走していけるように日々関わっています。

続いて、コミュニティ・スクールについて御説明いたします。具体的にコミュニティ・スクールとはどのようなものかを御説明いたします。コミュニティ・スクールとは、一言で言いますと「地域とともに子どもを育む学校」と言えます。コミュニティ・スクールのコミュニティは地域住民・保護者・学校であり、それらが、力を合わせて子どもたちの成長を支えていく学校のことをコミュニティ・スクールと呼んでいます。踏み込んだ話をさせていただきますと、つくば市ではコミュニティ・スクール協議会という話し合いの場を設置している学校をコミュニティ・スクールと呼んでいます。

大穂学園は今年度、協議会と言って、法に位置付けられたコミュニティ・スクールの本格設置となります。

スライドでお示ししているのが、コミュニティ・スクール協議会の様子です。右上、校長先生が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明をしています。中段、下段の写真、熟議を行っています。

さて、それではなぜコミュニティ・スクールが必要なのでしょうか。現在、学校では「いじめ、不登校」「教員の業務量増加」、地域では「地域社会における支え合いやつながりの希薄化」など、様々な課題が挙げられます。また、新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有することが大切であると書かれています。

これらのことから、学校と地域の課題を解決するために、学校と社会が目標を共有したり、地域と学校が連携して幅広い視点で子どもたちの成長を支えたりする必要があるのです。

それでは、具体的につくば市で進めるコミュニティ・スクールについて御説明いたします。つくば市コミュニティ・スクールには、スライドでお示ししている4つの機能があります。

①の機能として、学校運営の基本方針についての承認があります。

学校運営協議会では第1回目に学園長・学校長が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明を行います。その基本方針に対して委員の皆様から承認を行うことからコミュニティ・スクール協議会がスタートしていきます。ただし、学校運営の責任者は校長であり、コミュニティ・スクール協議会が校長の代わりに学校運営を決定・実施するものではありません。

②の機能としては、学校運営に意見を述べるということです。これから始まるコミュニティ・スクール協議会では、皆さんの様々な視点から御意見を頂ければと思っています。

③の機能として教職員の任用について意見を述べることができます。教職員の任用とは、学校とコミュニティ・スクール協議会が実現しようとする

教育目標等に合った人材を求めることです。例えば、学年主任ができるリーダー性のある教員や外国語活動に力を入れたいので、授業力のある教員を求めることなどです。

④の機能として、学校評価があります。委員の皆様と学校の課題について共有したり学校評価について話し合ったりということをしていきます。

先ほども申し上げましたとおり、大穂学園は今年度協議会という法に基づいた本格設置となります。

委員の立場としても特別職の地方公務員となり、スライドにお示ししているような責任のある立場となっていくしますので、御協力をお願いいたします。

先ほど、「熟議」という言葉が出てきましたので、「熟議」について御説明いたします。「熟議」とは、どのような子どもを育てたいのか、何を実現したいのか、という目標・ビジョンを共有するために、「熟慮」と「議論」を重ねることを言います。ひとことで言うと「よくよく、話し合う」ということです。

熟議では、テーマに対して、委員それぞれの考えを付箋に記し、模造紙に貼り付けていくというスタイルが多いです。熟議に参加する委員の方が、必ず意見を会議に反映させてほしいという意図のもとこのようなスタイルをとっています。

スライドでお示ししているのは、コミュニティ・スクールを自転車に例えたイメージ図です。自転車で例えるならば、協議会で話し合った内容が前輪及びハンドルとなり、「育てたい児童・生徒像」やコミュニティ・スクールの在り方などの方向性を決める役割を担っています。そして後輪には、地域学校協働活動が位置付けられます。地域学校協働活動とは、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動のことです。コミュニティ・スクールでは、前輪の協議会で方向性が決まったものに対して、それを後押しするように地域と学校が連携して様々な活動を行っていきます。この地域と学校との連携をスムーズに行うのが、地域学校協働活動推進員の役割です。学校の教育活動に対して地域学校協働活動を進めていくことで、この自転車がスムーズに進むようになります。自転車がスムーズに進むようになるときには、今まで以上に学校と地域が連携し、学校を核とした地域づくりにつながっていくはずですが、

地域学校協働活動の例を一つ御紹介いたします。昨年度、吾妻学園では、「ようこそ先輩」という学習において、ゲストティーチャーを地域学校協働活動推進員の方がコーディネートした授業を行いました。このように、地域学校協働活動が活発になると、地域の方々の関わりが、児童生徒の幅広い視野をもつことにつながります。また、地域の方々と関わることで、学校で学んでいることが社会でどのように役立っているかを理解することにもつながります。これまでは先生が中心となってコーディネートしていたのが、今後は地域の方の力も借りて成立するようにしていきたいと考えています。新しいことをやらなくてもよいのです。運営協議会の中で、何が必要か、何をしていくべきかについて地域と学校が熟議し、ともに作り上げていくこと大切です。既存のものをベースに、まずは、「学校理解」「地域理解」から進めていければと思います。

今日お伝えしたいことをまとめます。

①つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を最上位の目標としている

こと

- ②コミュニティ・スクールは地域とともに子どもを育てる仕組みであること
- ③つくば市のコミュニティ・スクールには4つの機能・役割があること
- ④熟議を通して皆が共有することが大切であるということ
- ⑤地域と学校が連携した様々な活動、地域学校協働活動が始まることです。

つくばの未来の創り手となる子どもたちのために御協力をよろしく願います。以上になります。

事務局：ただ今の件につきまして、意見や質問はありますか。（意見・質問無し）

5 会長・副会長の選出

事務局：協議の前に、会長と副会長の選出を行いたいと思います。選出につきましては、つくば市コミュニティ・スクール協議会に関する規則の第5条第2項に「会長及び副会長は、委員の互選により定める。」とあります。

事務局としては、今年度、コミュニティ・スクール協議会の会長を前大曾根小 PTA 会長として御活躍いただいた 古谷野委員に、副会長を同じく前、前野小 PTA 会長として御活躍いただいた、大塚貴文委員にお願いしたいと提案させていただきたいと思います。皆様いかがでしょうか。

参加委員：（拍手）

事務局：それでは、お二方よろしく願います。

6 協議（1） 「学校運営の基本方針について」

ア 学園グランドデザイン説明（学園長）

- ・教育大綱 社会力の育成
- ・基礎学力の向上
- ・各校の研究テーマを活かした協働的な学びの実施と ICT の思考ツールとしての可視化
- ・主体的に活躍できる特別活動、ルールメイキング
- ・教員研修の工夫と小中一貫教育の推進

イ 中学校グランドデザイン説明（大穂中校長）

- ・共に高め合い、粘り強く努力する生徒の育成

ウ 小学校グランドデザイン説明（大曾根小校長→前野小校長→要小校長→吉沼小校長）

- ・大曾根小学校（教育目標）自ら学び 心豊かで ねばり強い児童の育成
- ・前野小学校（教育目標）輝く個性が響き合い 笑顔あふれる児童の育成
- ・要小学校（教育目標）主体的・対話的な育み、よりよい社会・幸せな人生の創り手となる子の育成
- ・吉沼小学校（教育目標）夢や希望をもち、努力・挑戦し続ける児童の育成

エ 質問 ・ 質問等特になし

オ 賛同

- ・各校長の説明を受け、基本方針が参加者一同に承認される。本方針で学校運営をしていく。

協議(2) 「昨年度までの活動を生かした、今年度の流れについて」

ア スローガン決定の確認

「地域で育てる学びの場 大穂学園コミュニティ・スクール」

イ 「あいさつ運動」についてグループごとに協議を実施 (15 分間)

ウ 各グループの発表

(ア) 大曾根小グループ

- ・あいさつ運動は 11 月に行う。
- ・コミュニティ・スクールメンバー 5 人はいるが、5 人全員でやることに意味があるのか。
- ・地域で協力を要請できる団体は 3 団体ある。
- ・学校とすり合わせ、地固めを行う必要がある。
- ・協力してくれる団体の洗い出しを 11 月までに行う
- ・以前から児童の登下校を見守ってくれている「くすのき隊」の存在が大きい。

(イ) 要小グループ

- ・広く募りすぎて、誰があいさつ運動に参加しているのか分からなくなってしまうのは困る。
- ・他にも、子どもたちへの読み聞かせ、学校設備の塗装、調理実習の補助などのボランティアも検討している。
- ・学園全体の年 3 回以外にも話し合いをもち、活動内容を検討していく。

(ウ) 前野小グループ

- ・スローガンをのぼり旗に掲げたり、学校便りで知らせたりしながら、地域と一緒に活動していることをアピールしていく。
- ・現在はあいさつ運動を月に 1 回、3 か所で行っている。また、週に 1 回、3 か所で行っている安全協会のメンバーが防犯のため見守りを行っている。
- ・地域の産業を子どもたちに体験させたい。
- ・校歌の歌詞にも書かれている谷田川など自然を探索する。
- ・学校に居場所作りの場を提案したい。
- ・地域の人たちが学校に関心を寄せられるように PR していく必要がある。

(エ) 大穂中グループ

- ・生徒の交通事故が心配である。
- ・参加者をどのように集めるかについての検討。
 - ①応援団とコミュニティ・スクールの名前で保護者に呼びかける。
 - ②地域の協力支援団体にお願いする。
 - ③地域の人にもっと呼びかける。

(オ) 吉沼小グループ

- ・キャリア教育の一環として、児童が職業体験する機会を
- ・まずは保護者に声をかけて、多岐に渡る職業を募る。
- ・家庭科のミシン実習が危険なため、ミシン操作に長けている人を探し、補助をしてもらいたい。

協議(3) その他

ア 会長より

- 学校側とコミュニティ・スクールの皆さんで無理のない範囲で、もう一度絞っていただいて、委員さん2名が主になって連絡体制を整える。グループラインを作らせてもらって代表の委員さんが取りまとめをし、学校と相談してすり合わせをして実行していく。学校に直接に伝えるのではなく、10名の推進員さんが地域の人に呼びかける。
- 本日の協議で決定したことの確認になるが、大穂学園コミュニティ・スクール協議会として11月にあいさつ運動を行う。それぞれの学校の実情に応じた内容を工夫して取り組む。

イ 今後について

- 第2回 11月 5日(火) 時間未定
※学校の授業参観のあと大穂中でコミュニティ・スクール協議会の予定
- 第3回 2月 19日(水) 15:00
場所：大穂交流センター

7 閉 会

令和6年度第1回大穂学園コミュニティ・スクール協議会

日時:令和6年6月7日(金)

15:00~17:00

場所:大穂交流センター 研修室

次 第

1 開 会

2 任命書の交付

3 教育長挨拶

4 説明事項

つくば市のコミュニティ・スクールについて

5 会長・副会長の選出

6 協 議

(1) 学校運営の基本方針について

- ・各校のグランドデザインの説明
- ・学校の教育活動の紹介について

(2) 全体協議テーマ「昨年度までの活動を生かした、今年度の流れについて」

(3) その他

- ・コミュニティ・スクール協議会の今後の予定について

7 閉 会

令和6年度 大穂学園コミュニティ・スクール協議会

| 番号 | 委嘱の区分 | 氏名 | よみがな | 所属・役職 |
|----|-----------------|--------|-----------|-----------------------------|
| 1 | (1) 地域住民 | 井内 博行 | いうち ひろゆき | 大曾根小学校 元学校評議員 |
| 2 | (1) 地域住民 | 染谷 強 | そめや つよし | 大曾根小学校 元学校評議員 |
| 3 | (1) 地域住民 | 野澤 洋夫 | のぎわ ひろお | 大曾根小学校 玉取区長 大曾根地区長会長 |
| 4 | (1) 地域住民 | 中川 正 | なかがわ ただし | 前野小学校篠崎区長 |
| 5 | (1) 地域住民 | 大塚 一浩 | おおつか かずひろ | 前野小学校 岩崎区長 元学校評議員 |
| 6 | (1) 地域住民 | 小林 正信 | こばやし まさのぶ | 要小学校 要地区長 |
| 7 | (1) 地域住民 | 小林 由二 | こばやし ゆうじ | 要小学校 民生委員 |
| 8 | (1) 地域住民 | 村上 義孝 | むらかみ よしたか | 要小学校つくば市倫理法人会(相談役)・つくばエデュース |
| 9 | (1) 地域住民 | 軍司 絹子 | ぐんじ きぬこ | 大穂中学校元PTA会長 |
| 10 | (2) 児童・生徒の保護者 | 清水 大 | しみず まさる | 前野小学校PTA会長 前PTA顧問 |
| 11 | (2) 児童・生徒の保護者 | 山崎 由美子 | やまざき ゆみこ | 吉沼小学校 PTA共同代表 |
| 12 | (2) 児童・生徒の保護者 | 杉田 健 | すぎた けん | 吉沼小学校 子ども会育成連合会会長 |
| 13 | (2) 児童・生徒の保護者 | 濱田 優子 | はまだ ゆうこ | 大穂中学校 大穂中応援団(PTA等代表) |
| 14 | (3) 地域学校協働活動推進員 | 中島 武夫 | なかじま たけお | 大穂中学校 元PTA会長、元学校評議員 |
| 15 | (3) 地域学校協働活動推進員 | 古谷野 好栄 | こやの よしたか | 大曾根小学校 元PTA会長 元学校評議員 |
| 16 | (3) 地域学校協働活動推進員 | 諏訪 優子 | すわ ゆうこ | 大曾根小学校 元学校評議員 |
| 17 | (3) 地域学校協働活動推進員 | 中島 肇 | なかじま はじめ | 前野小学校 前野区長 元学校評議員 |
| 18 | (3) 地域学校協働活動推進員 | 渡邊 伸一 | わたなべ しんいち | 要小学校元PTA会長 |
| 19 | (3) 地域学校協働活動推進員 | 菊田 康人 | きくた やすと | 要小学校 元要小保護者 |
| 20 | (3) 地域学校協働活動推進員 | 川根 義行 | かわね よしゆき | 吉沼小学校 区長会長 元学校評議員 |
| 21 | (3) 地域学校協働活動推進員 | 塚本 正人 | つかもと まさと | 吉沼小学校 元教員 主任児童委員 |
| 22 | (3) 地域学校協働活動推進員 | 小野 泰宏 | おの やすひろ | 大穂中学校 元PTA会長 元学校評議員 |
| 23 | (3) 地域学校協働活動推進員 | 大塚 貴文 | おおつか たかふみ | 前野小学校 PTA顧問 前PTA会長 |
| 24 | (4) 学識経験者 | 藏持 正則 | くらもち まさのり | 大穂中学校 元大穂中学校長 |
| 25 | (5) 学校長 | 勝村 和之 | かつむら かずゆき | 大曾根小学校 校長 |
| 26 | (5) 学校長 | 村野 守司 | むらの もりじ | 前野小学校 校長 |
| 27 | (5) 学校長 | 石原 亜矢子 | いしはら あやこ | 要小学校 校長 |
| 28 | (5) 学校長 | 大越 茂 | おおこし しげる | 吉沼小学校 校長 |
| 29 | (5) 学校長 | 久松 和則 | ひさまつ かずのり | 大穂中学校 校長 |

令和5年度第3回大穂学園コミュニティー・スクール推進会議

(R6.1.26)

【大穂学園コミュニティー・スクール スローガン案】

| | |
|--------|--|
| 前野小学校 | <ul style="list-style-type: none">・地域で支える子供の笑顔 <p>(※右下に「大穂学園コミュニティー・スクール」を入れる。)</p> |
| 大曾根小学校 | <ul style="list-style-type: none">・まずやってみよう |
| 吉沼小学校 | <ul style="list-style-type: none">・地域がはぐくむ明るい未来・支え合おう、よりよい地域と子供のために、ともに始めよう歩もう・地域で育てる学びの場、大穂学園コミュニティー・スクール |
| 要小学校 | <ul style="list-style-type: none">・みんなでほめて、みんなで育てよう、となりの親戚 |
| 大穂中学校 | <ul style="list-style-type: none">・地域の宝、子供たちのいる学校を地域の宝にしよう・育てよう地域の宝 よりよい未来を目指し |

大穂学園 グランドデザイン 2024

茨城県の教育目標
ひとりひとりの能力を開発し
豊かな人間性をつちかう
じょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う
郷土を愛し
協力しあう心を育てる

大穂学園の教育目標
進んで関わり合い 粘り強く努力する児童・生徒の育成

つくば市の目指す学園・学校像
みんなが幸せを実感できる
学園・学校・幼稚園
自己実現できる学校
みんなで支え合い
みんなが生き生きした学校

大穂学園の小中一貫教育で目指す児童・生徒像

- 自分の考えをもち、進んで学ぶ子
- 礼儀正しく、思いやりのある子
- 心身共に健康で、粘り強い子

教えから学びへ & 管理から自己決定へ

基礎学力の向上 教えから学びへ 好奇心

- 学習意欲を喚起する課題と提示の工夫
- 思考を深める対話的な学習形態の工夫
- メタ認知を促す振り返りの工夫
- 考え、議論する道徳の展開
- ICT 機器を活用した教育方法の確立
- 主体的に取り組む家庭学習習慣の確立

4 学びの楽しさを味わう

児童・生徒の交流 他者とつながる力

- 授業【学年主任部会】
- つくばスタイル科【学年主任部会】
- スポーツ交流【体育主任】
- 行事交流【教務主任部会】
- 中学校見学【教務主任部会】

17 学びの楽しさを味わう

大穂学園の取組み

管理から自己決定へ 挑戦

～自己肯定感～6つの力のバランス

- 自己決定の場の設定【学年・特活主任】
- ルールメイキング【生指主・特活主】
- 特別活動の充実【特活主任】
- 生徒指導の充実【生徒指導主事】

～自己肯定感～6つの力のバランス

10 学びの楽しさを味わう

教員のスキルアップ&交流 尊敬される存在

- 学級経営【学年主任部会】
- 授業力向上【研究主任部会】
- 学園研修【推進委員会】
- 学園若手研修【担当校：】
- チーム支援研修【生徒指導主事部会】
- 教育相談【生徒指導主事部会】
- 特別支援教育【特支コーディネータ部会】
- Teams による研修交流・情報共有

4 学びの楽しさを味わう

コミュニティスクールの推進 体験

- 学校運営協議会推進委員会の開催
- 防災・安全管理
- くすのき会との連携

17 学びの楽しさを味わう

●領域【主担当】

大穂中の教育目標
共に高めあい、粘り強く努力する生徒の育成

実態を踏まえた各校の教育目標

大曾根小の教育目標
自ら学び 心豊かで ねばり強い児童の育成

吉沼小の教育目標
夢や希望をもち、努力・挑戦し続ける児童の育成

前野小の教育目標
輝く個性が響き合い
笑顔あふれる児童の育成

要小の教育目標
主体的・対話的な育み、よりよい社会・幸せな
人生の創り手となる子の育成

大穂学園つくば市立大穂中学校 グランドデザイン 2024

つくば市の教育目標

みんなが幸せを実感できる学園・学校
 「自己実現ができる学校」
 「みんなで支え合い」
 「みんなが生き生きした学校」

＜今年度の重点目標＞
教えから学びへ
管理から自己決定へ
非認知能力の再認識へ

自己選択・自己調整・自己決定

大穂学園の教育目標

進んで関わり合い 粘り強く努力する児童・生徒の育成

- 自分の考えをもち、進んで学ぶ子
- 礼儀正しく、思いやりのある子
- 心身共に健康で、粘り強い子

大穂中の教育目標
 共に高め合い、粘り強く努力する生徒の育成
 ～ 夢への挑戦「大穂プライド」～

茨城県の教育目標

ひとりひとりの能力を開発し
 豊かな人間性をつちかう

じょうぶな身体をつくり
 たくましい心を養う

郷土を愛し
 協力しあう心を育てる

すべての子どもの可能性を引き出す活力ある学校づくり

個別・双方向の学びと実体験を大切にする学びの実現

<未来をひらく力を育む教育>

目指す生徒:自ら疑問をもち、自分で考え、探究する生徒

◇授業改善の視点◇

- ・課題提示や難易度の工夫
- ・発問や展開の工夫
- ・対話や言語活動の重視
- ・課題解決型の探究的な学習
- ・各教科の特質に応じた見方・考え方
- 教科横断的な学びの確立
- ICTを活用した協働的な学びの展開
- ・考える時間や振り返りの工夫
- ・体験や既習事項の活用
- ・授業✓シートの活用

4 質の高い教育をみんなに

<豊かな心を育む教育>

目指す生徒:相手意識を持ち、自己決定できる生徒

◇自己肯定感を高める視点◇

- ・生徒会活動や係活動の充実
- ・校則の見直しやルールメイキング
- ・非認知能力を伸ばす環境づくり
- ・学級経営の充実
- ・規範意識の高揚
- ・批判的思考の育成
- 感動する体験活動や特別活動の実施
- コミュニケーション能力の育成
- ・道徳的実践意欲
- ・芸術文化活動の充実
- ・自然体験活動の充実

10 人や国々の平等をなくさない

<互いを認め合いだれもが輝く教育>

目指す生徒:失敗を恐れず、何事にも挑戦できる生徒

◇豊かな人間性を育む視点◇

- ・体力づくりや運動量の確保
- ・部活動改革の推進
- ・昼休みの外遊びの推奨
- ・持久力の向上
- ・社会性を育む交流活動や共同学習の充実
- ・発信型 PBL 学習の実施
- 自己管理能力の育成
- 特別支援教育の充実
- ・一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実（インクルーシブ教育の推進）
- ・生命（いのち）の安全教育の推進

3 すべての人に健康と福祉を

【教員のスキルアップとパフォーマンス向上のための働き方改革の推進】

目指す教師像:学びのイノベーションを推進し、質の高い教育の展開を目指す教師

◇指導力・人間力の視点◇

- ・授業力・生徒理解・生徒指導力
- ・デジタル教科書、ICT、ギガ端末の活用
- ・校内研修の充実（ケース会議・不登校対策の充実）
- ・働き方を意識した教科経営の実施（教科部会や授業実践）
- ・コンプライアンスの意識が高く、**服務規律を遵守**

5 働きがい、働きかた、働き方を

コミュニティスクールの推進

目指す地域像:地域・保護者と一体となって子供を育てる学校

16 平和と正義を育むために

学校教育 ↔ 家庭教育

↓

社会教育
 地域学校連携活動

- ・地域の人材・物的資源の活用
- ・社会教育との連携
- ・つくばスタイル科における発信型プロジェクト学習
- ・学校運営協議会との連携（推進委員会）
- ・青少年を育てる会との交流
- ・地域防犯、防災体制の構築
- ・学習支援ボランティア・出前授業等の教育プログラム
- ・学習、体験活動の充実
- ・部活動支援
- ・キャリア教育の充実



学園目標 ~進んで関わり合い 粘り強く努力する児童・生徒の育成~

本県教育の目標

- ひとりひとりの能力を開発し、豊かな人間性をつちかう
- じょうぶな身体をつくり、たくましい心を養う
- 郷土を愛し、協力しあう心育てる

茨城県学校教育指導方針

- すべての子どもの可能性を引き出す活力ある学校づくり
- ◇カリキュラムマネジメントの確立
- ◇豊かな学びの展開
- ◇安心して学べる環境の保障

校長のリーダーシップの発揮

目指す学校像

- 知性と感性の磨かれる学校
- 笑顔あふれる楽しい学校
- 共に学び合う教師集団の学校
- 家庭・地域社会と信頼と協力で結ばれた学校

経営理念

子供も教職員も生き生きと輝く学校

- 一人一人を大切に教育（思いやり・笑顔）
- 失敗を恐れず、チャレンジする教育（挑戦・創造）
- 組織を生かした、教師力の向上（協働・実行）
- 働き方改革の推進（効率的な働き方）

☆大曾根小学校の教職員としてのPRIDE

学校教育目標

自ら学び 心豊かて ねばり強い児童の育成

目指す児童像

- 自ら学ぶ子
 - ・意欲的に学習に取り組む子
 - ・基礎基本を身に付け自分の考えを伝える子
- 思いやりのある子
 - ・友達を大切にする子
 - ・助け合い高め合う子
 - ・元気にあいさつする子
- たくましい子
 - ・規則正しく生活できる子
 - ・進んで運動できる子
 - ・最後まであきらめずがんばれる子

組織目標

- 互いのよさを認め、安心して学び合える集団づくり
- 言語活動を通して単元の目指す児童像を実現するための授業づくり

つくば市の目指す学園・学校像

- みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園
- ・自己実現できる学校
- みんなで支え合い、みんなが生き生きとした学校

目指す子供の姿 ~自分事として捉えている~

- 教えから学びへ
 - ・本物の問い、自分事の問い
 - ・単元を意識した探究的な学び
 - ・体験型・発信型の学び
 - ・個別最適で協働的な学び
 - ・柔軟なカリキュラム・マネジメント
- 管理から自己決定へ
 - ・管理意識の転換
 - ・自ら考え判断する機会の充実
 - ・特別活動、学年・学級経営、生徒指導の充実
- 認知能力偏重から非認知能力の再認識へ
 - ・非認知能力を育む環境づくり
 - ・教師の働きかけ
 - ・豊かな感性を育む体験活動
- 保幼小中連携
 - 特別支援教育の充実
- 地域・保護者と一体となって子供をはぐくむ学校づくり
- 教育環境の整備

教員の資質能力の向上

目指す教師像

- 人間性豊かて、高い使命感をもつ教師
- 一人一人と寄り添った関係を築く教師
- 効果的な学びをデザインし、学びを引き出す教師
- 授業改善に向け、実践的専門性を高める教師
- 組織として協働し、学校教育目標の具現化に努める教師



研修テーマ

互いのよさを認め、
安心して学び合える集団づくり
~単元における目指す児童像を実現するための
言語活動の充実を通して~

学校評価

- ・子どもの願い
- ・保護者の願い
- ・地域の願い

互いに学び合う集団づくり

探究的・協働的な授業づくり

- ・単元を意識した課題設定
- ・自分事の問いに向けた課題提示
- ・対話を生み出す発問の工夫
- ・子供の選択による学習活動と学習過程
- ・学びの自覚を目指した振り返り活動

組織力を生かした学び合う集団づくり

- ・高学年における教科担任制の実施
- ・チーム担任制による集団づくり

ICT教育の工夫

- ・シームレス教育の推進
- ・学習者用端末のノート化
- ・個別最適で協働的な学びへの有効活用

笑顔いっぱい友達いっぱい

互いの良さを認め合う学校・学級づくり

- ・「認められる場所と環境」の設定
- ・対話を涵した多様な自己決定場面の設定
- ・校内フリースクールの支援体制の整備
- ・挑戦し、失敗が許される学級づくり
- ・多様な考えを大切にする教師集団
- ・「させる」から「支える」への指導の転換
- ・主体的な委員会、係活動の推進
- ・道徳教育の充実

体験活動を通した豊かな心の育成

- ・授業や行事での体験活動の工夫
- ・幼児と児童の交流活動
- ・専門家による感動を味わう指導の充実

のびのび元気な体づくり

体力づくりを目指した体育活動の充実

- ・運動の習慣化を図る授業づくり
- ・学習用端末を活用して、家庭と連携した体力づくりができる学習活動の工夫
- ・安全に運動できる外遊びの工夫

保健・安全教育の徹底

- ・子供目標での安全点検の実施と確実な改善
- ・ヒヤリハットの共有と事例研修
- ・交通安全教室、防災訓練の実施
- ・薬物乱用防止、性に関する指導の実施
- ・大穂学園合同引き渡し訓練の実施

夢への挑戦

社会の変化に対応できる人材の育成

- ・発信型プロジェクト学習の充実（探究する学び、プレゼンテーション）
- ・対話を通したルールメイキングの取組
- ・キャリアパスポートの活用
- ・つくばスタイル科の充実（生活科・道徳科・特別活動）

特別支援教育の充実

- ・全職員で取り組む特別支援教育の充実
- ・交流及び共同学習の充実
- ・定期的な特別支援委員会の実施
- ・ユニバーサルデザインの環境整備
- ・関係機関とのケース会議等の連携

連携・絆づくり

信頼される開かれた学校づくり

- ・学校コンプライアンス体制の確立
- ・学校事故の未然防止（点検・研修）
- ・教育活動の情報発信（HP 毎日更新）
- ・地域人材、施設を活用した多様な学習活動の実施

社会に関わった教育課程の実現

- ・大穂学園コミュニティ・スクール、地域学校連携活動の一体的な推進
- ・大穂学園での連携・PTAとの連携
- ・地域各種団体との連携（くすのぎ隊・区長会など）



輝く個性が響きあい 笑顔あふれる前野小学校にしよう

☆ 非認知能力の醸成

- やりぬく体験の保障
- 上手な励まし

☆ 教えから学びへ 分かる授業の展開

- 授業改善（課題へのこだわり・対話へのしかけ・振り返りの工夫）
- GIGA端末活用のレベルアップ
- 読書活動の推進（朝読書からの習慣化）
- 授業見学の機会創出

☆ 管理から自己決定へ 自律的な学級づくり

- 挑戦が称賛される学級経営
- 自分で解決させ、考えさせる授業
- 多様な考えを大切にする特別活動

☆ 働き方改革の推進

- 前小DX
 - ・ Outlook（予定管理・タスク管理）の活用
 - ・ Teams活用による授業と業務の展開
- 時間づくりで自分磨き
 - ・ ベクトルを大きく強くしなやかに
 - ・ 趣味づくり、マイブーム

☆ 服務規律の確保

- 風通しの良い雰囲気づくり
 - ・ 学校と保護者・地域で、Team前野
 - ・ 教職員が、明るく元気な前野Family
- 専門職としての法の理解

「前野小でよかった！」

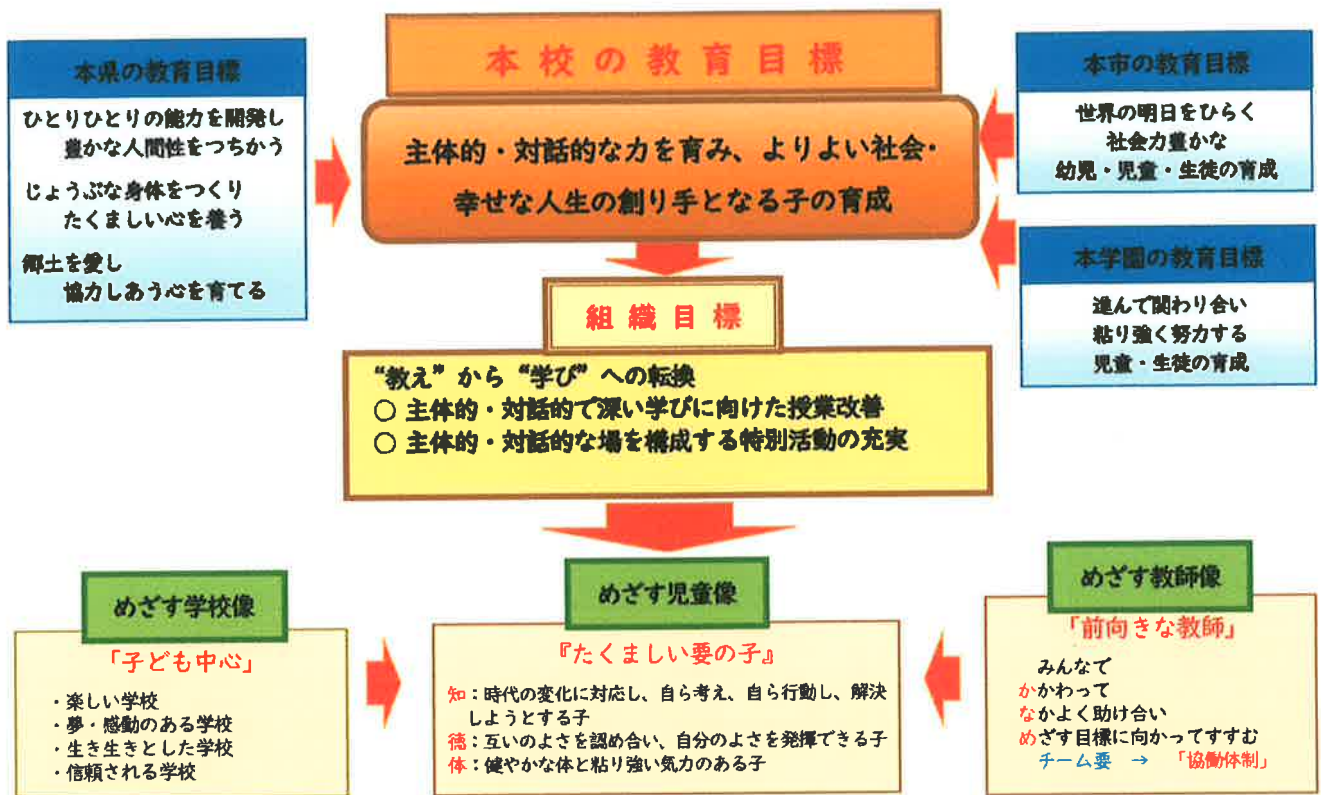
通ってよかった！ 通わせてよかった！ 勤務できてよかった！

= 一人ひとりが温かな気持ちで幸せを実感できる毎日に =

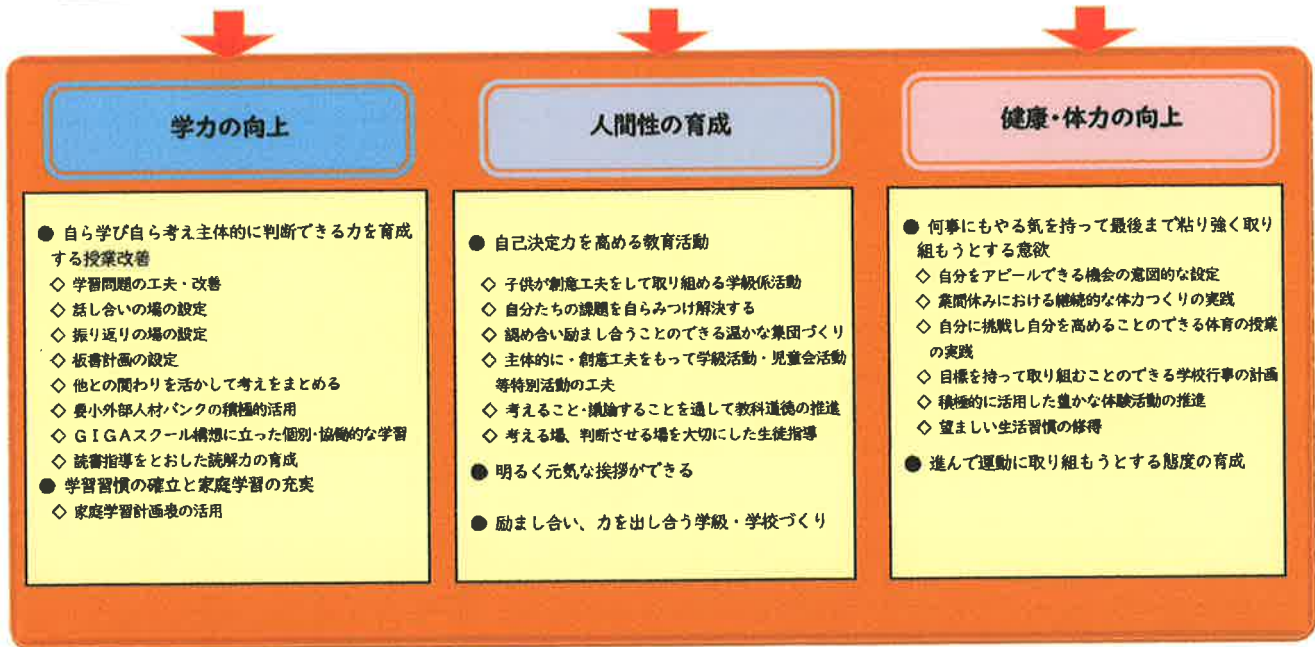
令和6年度 大穂学園つくば市立要小学校 グランドデザイン

一人ひとりが幸せな人生を送るために

4月1日版



組織目標具現化のための具体的施策



令和6年度校内研修テーマ
○ 仲間とのつながりを深め、よりよい学校生活づくりをめざす特別活動の充実

働き方改革の推進
・職場の環境づくり ・仕事の計画的推進

令和6年度 大穂学園つくば市立吉沼小学校ランドデザイン

学校教育目標 夢や希望をもち、努力・挑戦し続ける児童の育成

| 目指す学校の姿 | 目指す児童の姿 | ありたい教師の姿 |
|---------------------------|---------------------------|------------------------------|
| ○すべての子どもが生き生きと学ぶことができる学校 | ■進んで学び、自分の思いや考えを豊かに表現できる子 | ○子どもに寄り添い、子どもと共に学び、共に成長できる教師 |
| ○すべての教職員が熱意と創意をもち、協働できる学校 | ■思いやりがあり、友達と協力して活動できる子 | ○指導力を磨き続けることができる教師 |
| ○家庭・地域から愛される学校 | ■心身共に健康で、たくましい子 | ○豊かな人間性や社会性を備えた信頼される教師 |

本年度の学校経営の重点【組織目標】
コーチングによる指導の充実を図り、自ら目標を決め、工夫や努力する児童を育てる

《第3期つくば市教育振興基本計画》

■基本理念

夢に向かってよりよい未来をひらく「学び」の実現

- ・学ぶことに興味や関心をもち、自ら問いを立て、主体的・協働的に粘り強く取り組む力を育む。
- ・自分のやりたいことを思い描き、そこに向かって意欲をもって挑戦する子どもたちの育成を目指す。

《大穂学園の教育目標》

進んで関わり合い 粘り強く努力する児童・生徒の育成

《学校経営の基本理念》

すべての子どもが安心して学び、互いを認め、高め合い、成長をみんなで喜び合える学校づくりを推進する。

《学校経営の方針》

- 「認める・ほめる・励ます」の基本姿勢で児童一人一人に接し、すべての児童のよさを伸ばし、可能性を引き出す教育活動を実践する。
- 教職員一人一人が持ち味を発揮し協働できる学校組織をつくる。
- 学校の取組や様子を積極的に情報発信し、家庭や地域と連携して児童の育成に取り組む。
- 「ありたい教師の姿」を実現するため、学校の業務改善を推進する。(時間外勤務時間平均45h/月)

知のプロジェクト



進んで学び、
自分の思いや考えを豊かに表現できる子

- 1 児童自ら課題を設定し、他者と協働するなどして粘り強く課題解決に取り組む学習の充実
- 2 筋道を立てて、正確に、分かりやすく説明する力を育む指導の改善【校内研究テーマ】
- 3 一人一台端末を活用した補足的な学習、発展的な学習の充実
- 4 読書活動の推進
- 5 家庭と連携を図った学習習慣の確立

自己決定を促すコーチングによる指導の充実 (教師の聴くスキル・質問するスキル・承認するスキルの向上)

学ぶことと将来のつながりを意識できるキャリア教育の充実 (体験的な活動、キャリアパスポートの活用)

特別支援教育の充実 (合理的配慮に基づくパーソナル・サポート)

【数値目標】

- ・授業中、先生や友達の話聞いて考えたり、話し合ったりすることを進んで行っている児童の割合 85%
- ・進んで家庭学習を行っている児童の割合 90%

徳のプロジェクト



思いやりがあり、
友達と協力して活動できる子

- 1 相手の心に響き、行動を促すやさしい言葉づかいの励行
- 2 自己の生き方についての考えを深める道徳教育の充実
- 3 学級や学校の課題を見だし、話し合い、合意形成を図って取り組む活動の充実
- 4 児童会活動の活性化
- 5 いじめや差別を生まない人権教育の推進

【数値目標】

- ・まわりの人のことを考えて生活している児童の割合 80%
- ・いじめを絶対にしないように気を付けている児童の割合 100%

体のプロジェクト



心身共に健康で、たくましい子

- 1 家庭と連携した規則正しい生活リズムの定着 (早寝・早起き・朝ごはん)
- 2 担任と養護教諭が連携した保健学習、保健指導の充実 (危険回避、けがや病気の予防、生活習慣病の予防、ストレス対応など)
- 3 体力・運動能力調査結果に基づいた体育授業の工夫
- 4 ロング昼休みにおける外遊びの推奨
- 5 SCの効果的な活用

【数値目標】

- ・いつも「早寝・早起き・朝ごはん」ができている児童の割合 85%
- ・危ないことをしないように気を付けている児童の割合 90%

連携プロジェクト



家庭・地域等との連携

- 1 コミュニティ・スクールを基盤とする家庭や地域と連携した教育活動の推進
- 2 学校HPや学校だより等による積極的な情報発信
- 3 大穂学園内小中学校における交流の活性化 (児童生徒同士、教員同士)
- 4 地域人材や専門家と連携した指導の推進 (ICTを活用した遠隔教育も含む)
- 5 保幼小の連携強化

【数値目標】

- ・学校は、教育目標、教育方針を保護者に説明し、その実現に向けて努力していると回答する保護者の割合 90%